

米国・カナダ・オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

●米国：2021年10月12日公表ほか USDA Crop Production

9月の農業気象概況（2021年10月12日公表）

9月は、米国の大部分の地域で気温が平年並みを上回った。大平原地域の大部分で9月の平均気温が平年並みを2.2℃以上上回った。これと対照的に、メキシコ湾沿岸地域、ミシシッピー溪谷南部及び南西部の諸州では、9月の平均気温が平年並みをやや下回っており、北西部の諸州でも同様であった。米国の東側3分の1の地域で9月の降水量が平年並みを上回った。ハリケーン・アイダ及びハリケーン・ニコラスの影響により、メキシコ湾沿岸、大西洋沿岸中部及び北西部の一部の地域で、9月中の降水量が254mm以上となった（『2021年10月作物生産見通し第40号』米国農業統計局）。米国の中央部では、大部分の地域が平年並みに比べて乾燥した状態となっているが、その一方でカンザス州、ネブラスカ州及びサウスダコタ州では平年並みの2倍の降水量となった地域があった。米国西部ではアリゾナ州及び太平洋沿岸の多くの地域で、9月の降水量が平年並みの値の2倍となった。

乾燥インゲンマメ

2021作物年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量は、102万5,000tの見込みであり、この値は8月時点での予測に比べて3%の減少、2020作物年度の実生産量に比べて31%の減少である。作付面積は、56万6,000haとなる見込みであり、この値は8月時点での予測に比べて4%の減少、2020作物年度の実作付面積に比べて20%の減少である。収穫面積は、54万2,000haとなる見込みであり、この値は8月時点での予測に比べて4%の減少、2020作物年度の実収穫面積に比べて20%の減少である（『2021年10月作物生産見通し第45号』米国農業統計局）。米国全体の平均単収（単位面積当たり収穫量）は、1,888kg/haの見込みであり、この値は8月の時点での予測に比べて12.32kg/haの増加であるが、2020作物年度に比べて313.6kg/haの低下となっている。

表1 米国の乾燥インゲンマメ等の生産見通し(2020年及び2021年)

作物名	作付面積 (ha) 2020	作付面積 (ha) 2021	収穫面積 (ha) 2020	収穫面積 (ha) 2021	単収 (t/ha) 2020	単収 (t/ha) 2021	生産量 (t) 2020	生産量 (t) 2021
ヒヨコマメ	109,190	152,280	106,390	148,760	1.82	0.92	193,820	137,570
乾燥食用インゲンマメ	704,160	566,160	678,460	542,690	2.2	1.89	1,495,180	1,025,530
乾燥食用エンドウ	404,290	392,550	393,760	371,910	2.5	1.48	985,790	551,110
レンズマメs	213,680	287,730	208,010	269,930	1.62	0.86	336,160	230,880

生産量：米国農務省(USDA)、農業統計委員会、米国農業統計局(NASS)から、2021年10月12日付で公表。
 メートル法の単位による米国の2020作物年度及び2021作物年度(集計継続中)の作付面積、収穫面積、単収及び生産量。
 データは、入手可能な最新の報告書または前回の報告書の推定データによる。現行年度の推定は、2021作物年度全期間のものである。
 空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す。

表2 米国の乾燥インゲンマメの収穫面積、単収及び生産量
(2020作物年度及び2021作物年度)

州名	収穫面積 (ha) 2020	収穫面積 (ha) 2021/1	単収(t/ha) 2020/2	単収(t/ha) 2021/2	生産量(t) 2020/2	生産量(t) 2021/2
カリフォルニア	11,736	6,070	6.5	6.5	76,611	39,683
コロラド	21,044	12,141	5.6	5.3	117,837	64,155
アイダホ	26,709	22,258	6.6	7.9	175,488	175,819
ミシガン	104,409	84,175	6.4	7.1	665,024	596,130
ミネソタ	106,432	92,673	5.7	5.3	609,027	492,292
ネブラスカ	64,345	43,706	6.2	7.0	397,604	307,104
ノースダコタ	317,678	258,999	4.4	2.5	1,410,297	656,096
ワシントン	16,187	16,592	7.6	7.4	123,459	122,026
ワイオミング	9,915	6,070	5.9	6.4	58,202	38,912
米国全体	679,265	542,683	4.9	4.6	3,354,836	2,492,215

1/予測値である。
 2/精製済みの重量を基準とする。
 生産量：米国農務省(USDA)、農業統計委員会、米国農業統計局(NASS)から、2021年10月12日付で公表。
 米国の乾燥食用インゲンマメ収穫面積、単収及び生産量：2020作物年度及び2021作物年度(2021年10月1日現在の予測)。
 園芸種子用のインゲンマメを除く。

表3-1 米国の乾燥インゲンマメ等の州別及び銘柄別作付面積の推移
(2020年及び2021年8月1日現在の推定値)

銘柄及び州名	2020 (ha)	2021 (ha)	銘柄及び州名	2020 (ha)	2021 (ha)
ラージライマ			ダークレッドキドニー		
カリフォルニア	3,845	2,307	カリフォルニア	(D)	-
コロラド	-	-	コロラド	(D)	-
アイダホ	(D)	(D)	アイダホ	1,781	1,740
ミシガン	-	-	ミシガン	1,214	1,214
ミネソタ	(D)	(D)	ミネソタ	34,196	27,397
ネブラスカ	-	-	ネブラスカ	(D)	-
ノースダコタ	-	-	ノースダコタ	(D)	(D)
ワシントン	(D)	(D)	ワシントン	728	(D)
ワイオミング	-	-	ワイオミング	-	-
その他の州 1/	567	445	その他の州 1/	3,723	3,237
米国全体	4,411	2,752	米国全体	41,642	33,589
ベビーライマ			ピンク		
カリフォルニア	2,307	1,133	カリフォルニア	-	(D)
コロラド	-	-	コロラド	(D)	-

銘柄及び州名	2020 (ha)	2021 (ha)
アイダホ	(D)	(D)
ミシガン	-	-
ミネソタ	(D)	(D)
ネブラスカ	-	-
ノースダコタ	-	-
ワシントン	1,093	1,700
ワイオミング	-	-
その他の州 1/	283	445
米国全体	3,683	3,278
ネイビー		
カリフォルニア	(D)	-
コロラド	(D)	(D)
アイダホ	405	405
ミシガン	35,208	30,351
ミネソタ	20,477	20,477
ネブラスカ	-	(D)
ノースダコタ	37,231	31,565
ワシントン	405	567
ワイオミング	(D)	-
その他の州 1/	688	121
米国全体	94,413	83,486
グレートノーザン		
カリフォルニア	-	-
コロラド	(D)	(D)
アイダホ	1,821	1,781
ミシガン	(D)	(D)
ミネソタ	(D)	-
ネブラスカ	23,471	14,083
ノースダコタ	(D)	3,966
ワシントン	445	769
ワイオミング	(D)	(D)
その他の州 1/	6,637	1,700
米国全体	32,374	22,298
スモールホワイト		
カリフォルニア	-	-
コロラド	(D)	-
アイダホ	688	931
ミシガン	(D)	(D)
ミネソタ	(D)	(D)
ネブラスカ	(D)	(D)
ノースダコタ	-	-
ワシントン	(D)	(D)
ワイオミング	-	-
その他の州 1/	1,781	1,740
米国全体	2,469	2,671
ピントー		
カリフォルニア	-	-
コロラド	15,985	8,296

銘柄及び州名	2020 (ha)	2021 (ha)
アイダホ	2,428	2,550
ミシガン	-	-
ミネソタ	(D)	(D)
ネブラスカ	-	(D)
ノースダコタ	2,185	2,550
ワシントン	(D)	(D)
ワイオミング	-	(D)
その他の州 1/	2,104	2,185
米国全体	6,718	7,284
スモールレッド		
カリフォルニア	-	-
コロラド	(D)	(D)
アイダホ	2,226	2,145
ミシガン	8,498	8,094
ミネソタ	(D)	(D)
ネブラスカ	(D)	(D)
ノースダコタ	5,463	5,665
ワシントン	1,902	1,942
ワイオミング	(D)	(D)
その他の州 1/	1,174	1,781
米国全体	19,263	19,627
克蘭ベリー		
カリフォルニア	(D)	(D)
コロラド	-	-
アイダホ	(D)	(D)
ミシガン	971	1,012
ミネソタ	(D)	(D)
ネブラスカ	(D)	-
ノースダコタ	405	688
ワシントン	728	3,520
ワイオミング	-	-
その他の州 1/	890	1,093
米国全体	2,995	6,313
ブラック		
カリフォルニア	(D)	-
コロラド	(D)	(D)
アイダホ	2,145	1,983
ミシガン	51,800	44,515
ミネソタ	28,773	25,212
ネブラスカ	1,862	1,942
ノースダコタ	50,586	34,398
ワシントン	(D)	(D)
ワイオミング	607	324
その他の州 1/	2,954	3,318
米国全体	138,726	111,693
ブラックアイ		
カリフォルニア	3,237	1,497
コロラド	(D)	(D)

銘柄及び州名	2020 (ha)	2021 (ha)
アイダホ	10,279	10,158
ミシガン	1,133	809
ミネソタ	8,903	7,163
ネブラスカ	31,646	23,391
ノースダコタ	227,029	187,369
ワシントン	5,261	6,880
ワイオミング	8,498	5,666
その他の州 1/	-	-
米国全体	308,735	249,732
ライトレッドキドニー		
カリフォルニア	(D)	(D)
コロラド	3,480	2,226
アイダホ	971	931
ミシガン	3,035	3,035
ミネソタ	10,077	10,360
ネブラスカ	5,342	4,775
ノースダコタ	(D)	(D)
ワシントン	1,174	2,832
ワイオミング	(D)	-
その他の州 1/	486	1,295
米国全体	24,564	25,455

銘柄及び州名	2020 (ha)	2021 (ha)
アイダホ	(D)	-
ミシガン	-	-
ミネソタ	(D)	-
ネブラスカ	(D)	(D)
ノースダコタ	(D)	-
ワシントン	(D)	-
ワイオミング	(D)	-
その他の州 1/	4,573	4,047
米国全体	7,810	5,544
その他の品種		
カリフォルニア	1,416	809
コロラド	1,619	1,781
アイダホ	4,087	4,897
ミシガン	2,225	2,023
ミネソタ	(D)	(D)
ネブラスカ	(D)	(D)
ノースダコタ	(D)	(D)
ワシントン	1,538	1,659
ワイオミング	(D)	(D)
その他の州 1/	5,463	3,925
米国全体	16,349	15,094

(D) 個別の営農組織のデータの開示を避けるために公表せず。

1/上記の理由で公表しないデータを含む。

生産量：米国農務省(USDA)、農業統計委員会、米国農業統計局(NASS)から、2021年8月12日付けで公表。

米国の乾燥インゲンマメ州別及び銘柄別作付面積：2020作物年度及び2021作物年度(2021年8月1日現在の推定)。

園芸種子用インゲンマメを除く。

表3-2 米国のヒヨコマメの州別及び銘柄別作付面積の推移
(2020年及び2021年8月1日現在の推定値)

粒の大きさ及び州名	作付面積 (ha) 2020	作付面積 (ha) 2021	収穫面積 (ha) 2020	収穫面積 (ha) 2021 1/
小粒ヒヨコマメ 2/				
カリフォルニア	(D)	(D)	(D)	(D)
アイダホ	2,671	4,047	2,671	4,006
モンタナ	8,782	12,140	8,660	10,846
ノースダコタ	(D)	(D)	(D)	(D)
ワシントン	6,030	6,475	6,030	6,436
その他の州 3/	2,104	1,942	2,023	1,862
米国全体	19,587	24,605	19,384	23,148
大粒ヒヨコマメ 4/				
カリフォルニア	(D)	(D)	(D)	(D)
アイダホ	22,055	30,756	21,934	30,554
モンタナ	38,283	57,465	35,977	55,847
ノースダコタ	(D)	(D)	(D)	(D)
ワシントン	22,986	33,589	22,986	33,508
その他の州 3/	6,272	5,867	6,111	5,706
米国全体	89,597	127,678	87,007	125,614
ヒヨコマメ全銘柄				
カリフォルニア	3,359	1,255	3,278	1,214

粒の大きさ及び州名	作付面積 (ha) 2020	作付面積 (ha) 2021	収穫面積 (ha) 2020	収穫面積 (ha) 2021 1/
アイダホ	24,726	34,802	24,604	34,560
モンタナ	47,064	69,605	457,416	66,692
ノースダコタ	5,018	6,556	4,856	6,354
ワシントン	29,016	40,064	29,016	39,942
米国全体	109,184	152,283	106,392	148,762

(D) 個別の営農組織のデータの開示を避けるために公表せず。

1/推定。

2/小粒ヒヨコマメは、64分の20インチ(7.9mm)より小さいヒヨコマメ。

3/上記の理由で公表しないデータを含む。

4/大粒ヒヨコマメは、64分の20インチ(7.9mm)より大きいヒヨコマメ。

生産量：米国農務省(USDA)、農業統計委員会、米国農業統計局(NAS)から、2021年9月10日付けで公表。

米国のヒヨコマメ作付面積及び収穫面積 2020作物年度及び2021作物年度。

[以前に公表された作付面積及び収穫面積についての更新データを含む。]

●カナダ：2021年9月24日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

本報告書は、8月に公表されたカナダ農業食料省（AAFC）の2020/21作物年度の生産見通し報告書（2020/21作物年度は全作物について終了している）を更新して、2021/22作物年度についての見通しを示すものである。カナダでは大部分の作物について作物年度が8月1日に始まり7月31日に終わるが、トウモロコシ及び大豆については作物年度が9月1日に始まり、8月31日に終わる。ここに示す世界及びカナダの穀物市場に関する経済的見通しは、引き続きCOVID-19（コロナウイルス）に起因する国内及び国際的事情の不確実性の影響を受ける可能性がある。

乾燥エンドウ

2020/21作物年度のカナダの乾燥エンドウ輸出量は、中国への過去最高記録の輸出があったにも関わらず、2019/20作物年度の水準を下回り、360万tとなる見込みである。中国への輸出量の増加が、バングラデシュ及びインドへの輸出量の減少によって相殺された。国内利用量は、前年度に比べて増加している。輸出量が減少したにも関わらず、乾燥エンドウの平均価格は、2019/20作物年度に比べて急激に上昇して340ドル/tとなっており、輸出減の影響で、2020/21作物年度の期末在庫量は増加している。黄色乾燥エンドウ及び飼料用エンドウの作物年度平均価格は、前作物年度に比べて上昇したが、2019/20作物年度の緑色乾燥エンドウの価格を下回った。

2021/22作物年度のカナダの乾燥エンドウ生産量は、STC（カナダ統計局）の推定によれば、単収の低下により、2020/21作物年度に比べて45%減少して250万tとなる見込みである。サスカチュワン州が乾燥エンドウ生産量の

52%、アルバータ州が35%をそれぞれ占めており、残りはマニトバ州、ブリティッシュコロンビア州及びカナダ東部で生産されている。この結果として、期初在庫量が多かったにも関わらず、総供給量は大きく減少するものと予測されている。輸出量は230万tに留まり、中国、米国及びバングラデシュが引き続きカナダ産乾燥エンドウの輸出先の上位を占めている。期末在庫量は減少すると予測されている。世界的な供給量の減少及びカナダの期末在庫量の減少により、平均価格は2020/21作物年度に比べて急激に上昇して、過去最高記録の580ドル/tとなると見込まれている。

レンズマメ

2020/21作物年度のレンズマメ輸出量は、過去最高を記録した前作物年度に比べて15%減少して230万tとなる見込みである。この輸出量のうち150万tが赤色レンズマメであり、80万tを緑色レンズマメが占めている。主要な輸出市場はインド、アラブ首長国連邦、バングラデシュ及びトルコであった。国内総利用量は前作物年度から減少して50万t足らずであった。期末在庫量は大幅に増加して40万tとなった。カナダ産レンズマメの平均価格は、2019/20作物年度に比べて大幅に上昇した。第1等級の大粒緑色レンズマメの価格は、作物年度を通じて第1等級赤色レンズマメの価格を135ドル/t上回った。

2021/22作物年度のレンズマメ生産量は、単収の低下により37%減少して180万tとなる見込みである。作付面積はわずかに増加したが、単収は平年並みを下回る見込みである。生産量の減少の多くは、赤色レンズマメの減少によるものである。州別にみると、サスカチュワン州が全体の90%、アルバータ州が10%を占める見込みである。生産量は大きく減少したが、期初在庫量が多かったことから、総供給量の減少は28%に留まる見込みである。輸出量は、減少して190万tとなると予測されている。期末在庫量は大きく減少して10万tを下回ると予測されている。期末在庫量の減少及び世界的な供給減少の思惑があることから、全等級のレンズマメの平均価格は、2020/21作物年度に比べて大きく上昇して、過去最高記録の1,000ドル/tとなる見込みである。

乾燥インゲンマメ

2020/21作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ輸出量は、2019/20作物年

度に比べてわずかに増加して過去最高記録の40万tとなる見込みである。EU諸国及び米国がカナダ産乾燥インゲンマメの輸出市場の上位2カ国であり、これより少ない量がアンゴラ、日本及びメキシコに輸出されている。カナダドルの為替レートが強まっていること及び北米全体の生産量が過去最高記録に達していることにより、2020/21作物年度のカナダ産乾燥インゲンマメの価格が圧迫されている。

2021/22作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ生産量は、主としてマニトバ州での作付面積の減少及び単収の低下により、28%減少して35万tとなると予測されている。州別にみると、マニトバ州が乾燥インゲンマメ生産量全体の41%を占めており、オンタリオ州が29%、アルバータ州が27%を占め、残りをサスカチュワン州が占めている。期初在庫量が多かったことから、総供給量の減少率は5%に留まると見込まれている。輸出量は、前作物年度と同様か、またはわずかに増加する見込みである。この結果、期末在庫量は減少する見込みである。北米での供給量が減少すると予測されていることから、カナダ産乾燥インゲンマメの平均価格は上昇して、過去最高記録の1,090ドル/tとなる見込みである。

ヒヨコマメ

2020/21作物年度のカナダのヒヨコマメ輸出量は、前作物年度に比べて増加して15万tとなった。パキスタン及び米国の需要が高まったことが輸出量増加の要因となっている。輸出量が増加したにも関わらず、総供給量の増加により、期末在庫量は前作物年度に比べて増加した。ヒヨコマメ全品種について世界的に供給量が増加しているにも関わらず、平均価格は大きく上昇した。

2021/22作物年度のヒヨコマメ生産量は、作付面積の減少及び平均単収の急激な低下を反映して大幅に減少し、6万4,000tとなる見込みである。州別に見ると、サスカチュワン州がヒヨコマメ生産量全体の78%を占め、アルバータ州が22%を占めている。期初在庫量が多かったことから、総供給量の減少率は23%に留まり、39万tとなる見込みである。輸出量は、2020/21作物年度に比べて減少すると予測されているが、期末在庫量は最近5年間で初めて減少する見込みである。世界的にヒヨコマメの供給量が減少するとの思惑から、平均価格は大きく上昇して985ドル/tとなる見込みである。

表4 カナダの豆類作付面積・収量面積・単収その他

	乾燥エンドウ [a]			レンズマメ [a]			乾燥インゲンマメ [a]			ヒヨコマメ [a]		
	2019-2020	2020-2021[f]	2021-2022[f]	2019-2020	2020-2021[f]	2021-2022[f]	2019-2020	2020-2021[f]	2021-2022[f]	2019-2020	2020-2021[f]	2021-2022[f]
作付面積 (1,000ha)	1,753	1,722	1,546	1,530	1,713	1,743	160	185	173	159	121	75
収穫面積 (1,000ha)	1,711	1,685	1,508	1,489	1,705	1,714	150	183	168	156	120	72
単収 (t/ha)	2.48	2.73	1.68	1.6	1.68	1.05	2.11	2.68	2.09	1.61	1.79	0.89
生産量 (1,000t)	4,237	4,594	2,527	2,382	2,868	1,802	317	490	352	252	214	64
輸入量 (1,000t) [b]	82	82	90	90	114	75	75	63	75	48	42	45
総供給量 (1,000t)	4,631	4,910	3,095	3,327	3,190	2,283	442	578	547	440	506	389
輸出量 (1,000t) (b)	3,709	3,580	2,300	2,734	2,326	1,900	361	395	400	105	150	135
国内総利用量 (1,000t) (c)	689	851	745	384	459	333	56	63	62	85	77	84
期末在庫量 (1,000t)	233	479	50	209	406	50	25	120	85	250	280	170
在庫量/利用量 (%)	5%	11%	2%	7%	15%	2%	6%	26%	18%	132%	124%	78%
平均価格 (ドル/t) (d)	265	340	580	485	645	1,000	985	930	1,090	490	640	985

[a] 作物年度は8月から7月。

[b] 輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c] 国内総利用量=食用及び加工原料用+飼料用廃棄物+種子用+損耗。国内総利用量は総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d] 生産者価格 (FOB)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

F: AAFC (カナダ農業食料省) による推定。ただし、2020/2021作物年度の作付面積、単収及び生産量は STC (カナダ統計局) の推定。

資料: カナダ統計局 (STC) 及びカナダ農業食料省 (AAFC)

● オーストラリア: 2021年9月7日公表 Australian crop report

概観

2021/22作物年度のオーストラリアの冬作の生産見通しは、平年並みを大きく上回るものと推定されている。冬作の作付面積は過去最高記録に達する見込みであり、平均単収はすべての州で長期的な平均値を上回る見込みであるが、全般的にみると2020/21作物年度の値には届かないものと推定されている。

6月及び7月の生育条件は格別に良好であり、大部分の生産地域で十分な土壤水分含有割合が得られ、平年並みから平年並みを上回る降水量に恵まれた。良好な生育条件によって、作物の生育が促進された。

8月の生育条件は全般的にみるとこれほど良好ではなく、ニューサウスウェールズ州北部及び中央部を除く大部分の生産地域で降水量が少なく、気温が高い状況となり、土壤水分含有割合が低下した。

冬季の生育条件の影響で、春季の始めの時点での単収の見通しは、大部分

の生産地域で平年並みから平年並みをやや上回る見込みとなっている。ただし、西オーストラリア州、クイーンズランド州中央部、ヴィクトリア州のマレー地域及び南オーストラリア州など一部の生産地域では、平年並みの単収を得るには春季の始めにおいて降水量が得られることが必要である。西オーストラリア州の大部分の生産地域では、春季の降水量がこれまでの中間値を下回ったとしても、平年並みを大きく上回る単収が得られる見込みである。

オーストラリア気象庁が2021年9月2日に公表した最新の3カ月間気象予測（9月から11月）によれば、オーストラリア東部の諸州及び南オーストラリア州では春季の降水量はこれまでの中間値を上回る可能性が高い。

エスペランス地域を除く西オーストラリア州の大部分の生産地域では春季の降水量がこれまでの中間値を上回る可能性が低い。オーストラリア東部の諸州及び南オーストラリア州では、春季にこれまでの中間値を上回る降水量があった場合には、一部の地域で収穫が遅れ、収穫物の品質が低下する恐れがある。

表5 オーストラリアの豆類作付面積及び生産量

作物名		2018-19	2019-20	2020-21 s	2021-22 f
ヒヨコマメ	作付面積(1,000 ha)	294	309	508	633
	生産量(1,000t)	205	235	733	844
ソラマメ	作付面積(1,000 ha)	234	215	269	249
	生産量(1,000t)	233	313	510	442
エンドウマメ	作付面積(1,000 ha)	230	248	209	197
	生産量(1,000t)	160	211	294	250
レンズマメ	作付面積(1,000 ha)	400	412	368	390
	生産量(1,000t)	359	526	634	639
ルーピン	作付面積(1,000 ha)	661	665	496	497
	生産量(1,000t)	799	591	774	749

f：ABARESによる予測。

s：ABARESによる推定。

注：作物年度は、4月1日から3月31日までの12カ月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。面積は作付面積であって、収穫に至った面積、飼料用として利用された面積または放棄された面積を含む。

典拠：ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学省)、ABS(オーストラリア統計局)、Pulse Australia

表6 オーストラリアの州別生産量

冬作物名	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クィーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積 (1,000 ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000 ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000 ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000 ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000 ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000 ha)	生産量 (1,000t)
ヒヨコマメ												
2019-20	66.4	24.4	37.8	25.5	170.8	162.1	21.4	18.1	12.8	5.1	0	0
2020-21 s	220	374	45	67.5	230	275	8	11	4.5	5	0	0
2021-22 f	280	316.4	30	40	310	471.2	8	10.5	4.5	6	0	0
2020-21作物年度までの5年間の平均	255	323.9	41.8	44.8	324.6	434.4	21.8	24.2	7.8	7.8	0	0
フィールドビー												
2019-20	27.5	18	68.9	58.2	0	0	105.5	89.9	45.7	44.3	0	0
2020-21 s	34	61	55	82.5	0	0	85	105	35	45	0	0
2021-22 f	37	45.1	40	55	0	0	85	90	35	60	0	0
2020-21作物年度までの5年間の平均	46.3	45.8	68	75	0	0	93.3	112	33.9	46.4	0	0
レンズマメ												
2019-20	4.7	2.8	225.5	268.4	0.1	0.2	160.8	233.7	21.3	20.8	0	0
2020-21 s	7	9.8	180	306	0.1	0.1	170	300	11	18	0	0
2021-22 f	7	7.6	170	280	1.2	1.3	200	330	12	20	0	0
2020-21作物年度までの5年間の平均	5.4	5.5	186.7	232.8	0.1	0.2	171.6	298.1	11.1	11.9	0	0
ルーピン												
2019-20	43.2	23.6	42.6	39.1	0	0	45.2	41.3	533.2	485	0.4	2
2020-21 s	68	130	38	43.7	0.1	0.1	40	50	350	550	0.2	0.5
2021-22 f	68	88.4	38	39	1.1	1.1	40	45	350	575	0	0
2020-21作物年度までの5年間の平均	63.1	58	42.5	43.9	0	0	52.6	62.2	431.2	617	0.3	0.8

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値あるいは予測値がゼロと表示される場合がある。面積は作付面積であって、収穫に至った面積、飼料用として利用された面積または放棄された面積を含む。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学省)、ABS(オーストラリア統計局)、Pulse Australia

表7 オーストラリアの豆類供給及び利用状況

	2014-15 (1,000t)	2015-16 (1,000t)	2016-17 (1,000t)	2017-18 (1,000t)	2018-19 (1,000t)	2019-20 (1,000t)
生産量						
ルーピン	549	652	1031	714	799	591
フィールドピー	290	205	415	317	160	210
ヒヨコマメ	555	875	2004	998	205	235
見かけ上の国内利用量 a						
ルーピン	306	398	637	258	540	376
フィールドピー	124	72	148	189	87	165
ヒヨコマメ	1	1	1	1	1	1
輸出量						
ルーピン	243	254	395	456	259	215
フィールドピー	168	134	268	130	75	48
ヒヨコマメ	663	1145	2293	724	372	349

a：生産量に輸入量を加えた値から、輸出量を差し引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を差し引いて算出した値。

注：生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。豆類の市場年度は11月から10月までである。市場年度に基づく輸出量のデータが、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量の数値と一致しない場合がある。500t未満の場合にはゼロと表示する。ABSの農業データ収集方針の変更により、2014/15年度までは推定生産額5,000ドル以上の生産主体(EVAO)による生産量となっていたが、2015/16年度以降は推定生産額40,000ドル以上の規模のEVAOによる生産量となっている。

典拠：ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学省)、ABS(オーストラリア統計局)、Pulse Australia

表8 オーストラリアの豆類価格の推移(豪ドル/t)

作物名	2019	2020				2021	
	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期
国内価格：ルーピン(クィナナ調べ)	431.5	528.8	551.5	496.9	385.8	393.1	361.9
国内価格：ヒヨコマメ(メルボルン調べ)	777.5	855.8	735.9	627.7	582.5	616.2	679.2
国内価格：エンドウマメ(メルボルン調べ)	488.8	526.9	520.4	449.2	393.5	406.5	414.8
輸出量：ヒヨコマメ b	829.5	855.6	866.6	771	693.2	691.7	746.5
輸出量：エンドウマメ b	612.4	663.4	664.7	650	515.2	481.1	496.5

a：単位当たりの輸出価格は、米ドルで表記された日別価格の平均を、日別為替レートの四半期ごとの平均値に基づいて豪ドルに換算したものである。

b：単位重量当たりの輸出価格は、その四半期に輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。ここに示した価格は、オーストラリア統計局が記録したオーストラリアからの輸出の単位重量当たり平均価格(F.O.B.本船渡し)である。輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に輸出が行われる時点の間には、大きな時間差が生じる場合がある。

注：第1四半期は1月から3月まで。第2四半期は4月から6月まで。第3四半期は7月から9月まで。第4四半期は10月から12月まで。価格の算出に当たっては、商品サービス税(GST)を除外している。

典拠：ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学省)、ABS(オーストラリア統計局)、CMEグループ、Farm Weekly、国際穀物会議(International Grains Council)、The Land、The Weekly Times、米国農務省。